

## 平成30年度評価結果の反映状況

地方独立行政法人下関市立市民病院

### 第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

|         |   |
|---------|---|
| 項 目     | 2 地域医療への貢献と医療連携の推進<br>(2) 高度医療の充実<br>・MRIの増設について、費用対効果を十分検証し、整備を進める。(項目NO.27)   |
| 指 摘 事 項 | 急性期を担う中核病院として、市民のニーズに応じた高度医療を充実させるためにも、高度医療機器の更新については計画的に行うこと。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価：2</span> |
| 実 施 状 況 | 平成30年度から繰越となっていたMRIの増設については、令和元年11月に整備が完了し、2台体制となり、待機患者削減に繋がった。   |

### 第5 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

|         |  |
|---------|--|
| 項 目     | 1 予算、2 収支計画、3 資金計画（項目NO.56）  |
| 指 摘 事 項 | 7対1入院基本料の施設基準（重症度、医療・看護必要度）を満たすことに重点を置いたことで、平均在院日数が11.0日と短縮されたこと等により、入院延患者数が減少したにもかかわらず、その他医業収益と合わせた医業収益が法人化後の最高額となったことは評価できるが、損益ベースでは、人件費の増加と材料費の増加、電子カルテシステムの償却が始まったことに伴う減価償却費の増加などにより医業費用の増加額が医業収益を上回ったため、1億7,047万円の赤字計上となったことから、収益の確保に努めるとともに、費用の節減に努め、更なる経営の効率化及び健全化に向けた取組を期待する。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">評価：2</span> |
| 実 施 状 況 | 令和元年度において、収支面では、入院収益は入院患者数が増   |

加したことで、前年比 6.2%増の 69 億 4 千 5 百万円、外来収益は前年比 2.7%増の 25 億 3 千 9 百万円となり、その他医業収益と合わせた医業収益は 96 億 6 千 9 百万円と前年比 4 億 6 千 5 百万円、5.1%増となり法人化後の最高額となった。医業費用は、主に材料費の増加などにより前年比 1 億 9 千 8 百万円、2.1%増となったが、収支は前年度から 4 億 8 千 2 百万円好転し、3 億 1 千 1 百万円の黒字計上となった。

資金面では、平成 30 年度末には 8 億 1 千 3 百万円の資金残となっていたが、令和元年度末には 3 億 6 千 4 百万円上回る 11 億 7 千 8 百万円の資金残となっている。